

# DAPCON Newsletter

デジタルアーカイブ  
推進コンソーシアム  
Newsletter

No. 14

## CONTENTS

デジタルアーカイブ事業でのふるさと納税活用

会社紹介

コロナの時代の研究教育

大向一輝 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

トピックス



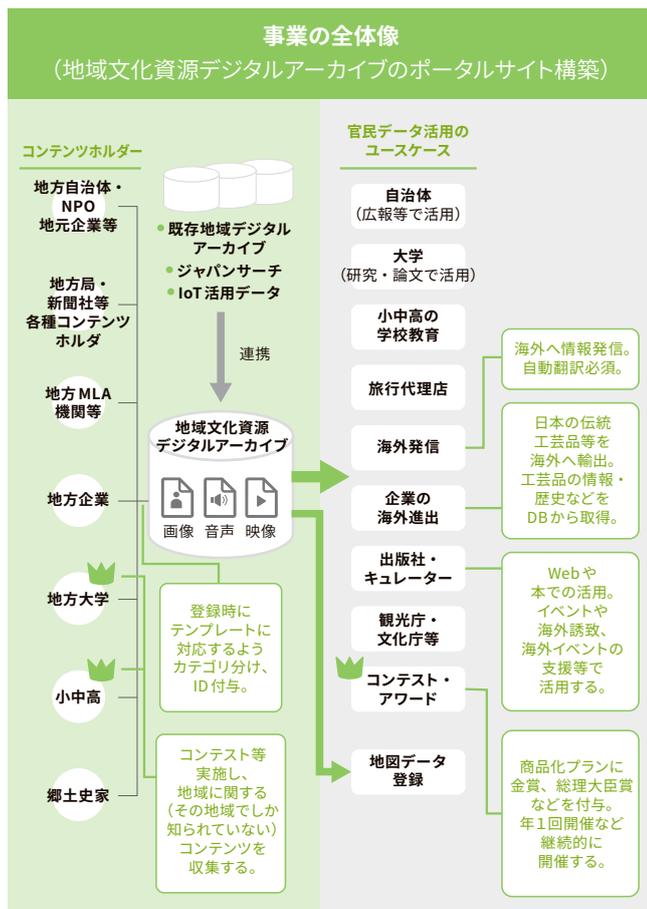
デジタルアーカイブ推進コンソーシアム  
**DAPCON**

# デジタルアーカイブ事業でのふるさと納税活用

我が国の地域文化資源を発掘し観光資源や教育コンテンツとしてデジタルアーカイブ化することにより地方創生に役立てたい、また、業界を束ねた本コンソーシアムがその手法と運用の標準化を図り、単独ではハードルの高い自治体でのデジタルアーカイブ事業のネックを解消していきたいとの趣旨のもと、パイロット事業に向けた企画検討と関係各署との連携活動を実施してきました。また経済産業省や総務省へ提案し適宜アドバイスをいただきながら進めてまいりました。

事業開始にあたり中部地方を中心にその周辺をターゲットとして検討し、その中から岐阜県高山市にお声かけし賛同を得て共同で進めることとしました。事業全体像にあるような利活用を含めた施策にはまだ至っていませんが、デジタルアーカイブ資金をいかに調達するか、事業の継続性を担保するためにどうやって市民を巻き込むべきかさまざまな議論を重ね、ふるさと納税でどの程度デジタルアーカイブへの関心を集められるかをトレースしてみることにしました。実施にあたっては「地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業」をはじめこれまで数々のデジタルアーカイブ事業に取り組んでいる岐阜女子大学に多大なるご協力をいただきました。

以下に高山市と岐阜女子大学、本コンソーシアムによる検討内容をご紹介します。



## 1 高山市の事業理念と重点施策

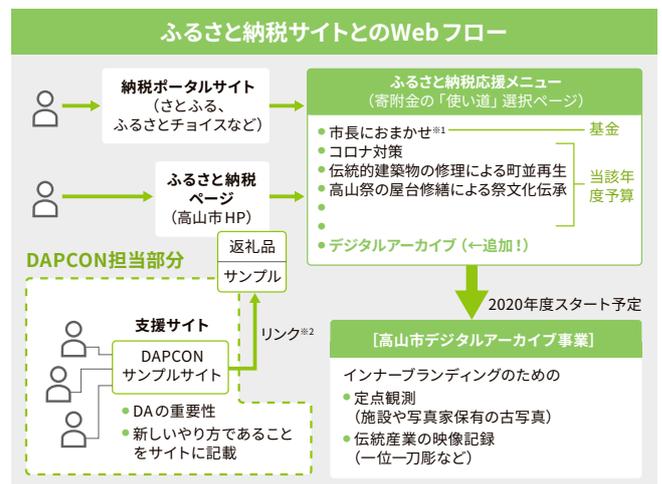
「高山市歴史文化基本構想 文化財保存活用計画」から「豊かな歴史・文化」「こどもたち」「住民意識」「ふるさと」「誇り」「つながり」「継承・受け継ぐ」「人口減・地縁組織の衰退」といった事業理念のキーワードを抽出し、市民参加型・ボトムアップ型事業、郷土愛の醸成・活用、地元雇用の創出といった継続性を担保する事業であるということと、CC0またはCC BYでの国内外への新たな魅力発信を行い、アーカイブデータを価値化していくことが重要であると考えました。

## 2 事業概要

ふるさと納税を活用しデジタルアーカイブの予算を担保するビジネスモデルを検討し実施していくことで、岐阜県高山市及び岐阜

女子大学と合意し実施に至りました。

寄附者より寄附金の用途に賛同して寄附いただく形式の「ふるさと納税応援メニュー」の中に「デジタルアーカイブ」の項目を追加し、デジタルアーカイブ予算をどのくらい集めることができるのか、実験を通して検証することとしました。



※1「市長におまかせ」を選択すると、納税金が基金に入り、次年度予算に充当される。

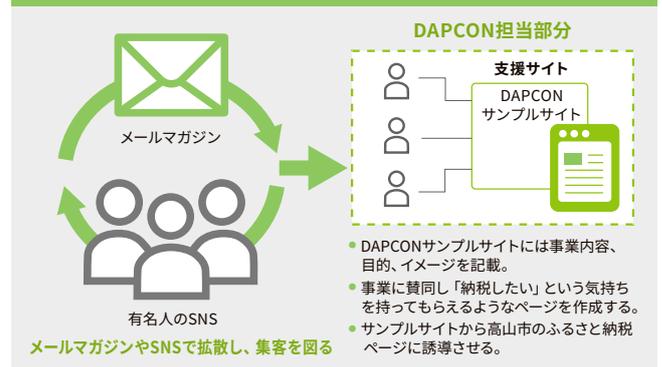
※2 掲載する時期・しない時期を設ける。

## 3 DAPCONの担当する部分

本コンソーシアムは高山市を支援する形でデジタルアーカイブのサンプルサイトを作成しました。サイトを通じて本プロジェクトを周知し、高山市のふるさと納税ページに誘導することを想定しています。

公開時期は調整中ですが、2020年度早めに公開したいと思っています。

## DAPCON サンプルサイトへ誘導するプロモーション企画



## スタートバーン株式会社

### スタートバーン株式会社とは

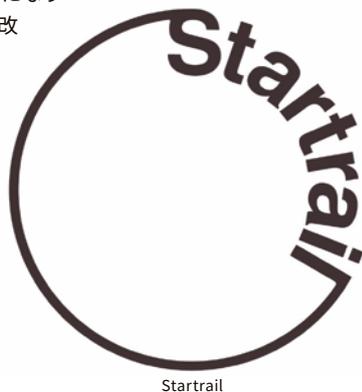
世界中のアーティストそしてアートに関わる全ての人が必要とする技術を提供し、より豊かな社会の実現を目指す会社です。ブロックチェーン技術を活用した、アートの信用担保とさらなる発展を支える流通・評価のためのインフラ「Startrail」の開発を行なっています。

### Startrailとは

Startrailは、サービスを横断して全てのアート事業者が接続できる新しいアートインフラです。作品と共にStartrail登録証を流通させることで、作品の来歴が自動で記録され続けます。デジタルアーカイブにおけるデータベースとしての機能はもちろん、作品の価値担保および流通管理のための仕組みとしても活用できます。

アート作品に対して「Startrail登録証」を発行することで、売買・贈与・展示・保管・修復されるたびに、その情報が自動で記録されるようになります。ブロックチェーンの耐改ざん性と透明性の高さにより、それらの情報の真正性が担保された状態で管理できるため、作品の正しい価値を守ることができます。

また、Startrail登録証には、その作品の流通や取引に関するルールを自ら設定することができます。二次流通時に発生す



Startrail

る利益を、作者本人が還元金として自動で獲得することも可能です。

### Startbahn Cert.とは

また、Startrailに接続するサービスとして、自社オンラインサービス「Startbahn Cert.」を展開しています。

「Startbahn Cert.」は、アート作品に対するStartrail登録証と、その情報に紐付いた「ICチップ付き作品管理タグ(以下ICタグ)」を併せて発行・管理できるサービスです。実際に取引される作品の動きと、Startrail登録証で更新され続ける作品情報や来歴記録の乖離を防ぐことができます。

アート作品の所有者は、ICタグをスマートフォン等で読み込むことにより登録証情報を閲覧することができます。アーティストやギャラリーなど、アート作品の流通に関わる事業者は、ウェブインターフェースを通して登録証の発行・移転ができます。



Startbahn Cert

## ヤフー株式会社

### Yahoo!ニュースのいま

2020年4月、Yahoo!ニュースのPV(ページビュー)が225億に達し、これまでの最多を記録しました。新型コロナウイルスの感染拡大に伴って情報を求める人々が殺到したからだと考えます。スマホの登場でニュースは、ネットでキャッチして読む習慣が幅広い世代でさらに定着したと言えるでしょう。また、メディアに関する考え方も変わってきています。かつては新聞、テレビ、雑誌などそれぞれのブランドごとに読み、視聴していたものが、一つのプラットフォームで様々な多様なコンテンツが見られるようになりました。

Yahoo!ニュースは、ニュースのプラットフォームです。契約している380社余りのメディア企業の600以上の媒体(新聞、テレビ、雑誌、ネットメディア)が日々記事をYahoo!ニュースに入稿してきます。1日に6000本ものニュースや多様な情報をユーザーに提供しています。その届け方の特徴は、編集者の手によるトピックス(PCなら8本、スマホなら6本)で、今多くの人に知っておいてほしいニュースを、「ここがポイント」という関連ニュースリンクをつけて立体的に深めるために同じ主題の異なる視点のニュースを組み合わせる構成をしています。他のネットポータルにはあまりない構成で、こうしたUX(ユーザー体験)の実現が、Yahoo!ニュースが現在ニュースのポータルサービスとしては最も利用される理由かもしれません。



PC版のトップページ  
8項目でいま大事なニュースを届ける

### デジタルアーカイブ「未来に残す戦争の記憶」

Yahoo!ニュースは、日々の出来事をできるだけ早くユーザーに届けるというフローのサービスが主ですが、一方でネットの特性であるストックのサービスもあります。それが、「未来に残す戦争の記憶」というデジタルアーカイブです。戦後70年の2015年に始まったもので、戦争体験者が少なくなる中、ネットのアーカイブを利用すれば100年未来にも戦争体験が伝えられると当時の宮城学社長の発案で構築されました。現在は、日本人の空襲体験を最も詳しく伝えるデジタルアーカイブになるよう制作しています。Yahoo!ニュースは、もともと各メディアからニュースを預かって伝えるネットポータルですので、このアーカイブのコンテンツは、地方紙やテレビ局と共同で取材、制作するようにしています。特に地方紙は、その地域では圧倒的な取材ネットワークを持っています。また、過去から積み上げてきた記事や写真を豊富にアーカイブしています。ここでは、この7月に実施した徳島新聞との連携について紹介します。1945年7月に起きた徳島空襲の体験者を記者が探し出し(過去の取材や記事をもとに)、ヤフーとともに証言を収録します。そして、ドキュメンタリー映像と証言の動画を制作してヤフーの「未来に伝える戦争の記憶」のサイトと新聞社のウェブサイト配信、ヤフーで広く見てもらい、新聞社は紙面でも詳しく伝えます。この映像ドキュメンタリーはさらに、徳島新聞社がDVDにして県内の小中学校に配布、学びで使われることになりました。ネットコンテンツがリアルな場で利用される、こうした取り組みでメディアへの信頼感を高める、そんな循環を目指しています。



デジタルアーカイブ「未来に伝える戦争の記憶」  
動画コンテンツが140本アーカイブされている

## コロナの時代の研究教育

大向一輝 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

新型コロナウイルス感染症の影響によって、多くの大学ではキャンパスへの入構が制限されたまま春学期を終えた。この間、ほぼ全ての授業はオンラインで実施されることになり、筆者も30回ほどバーチャルな教壇に立った。一口にオンライン授業と言っても、内容や受講生の人数、座学か実習形式か、といった要素によって最適なあり方は授業ごとにまったく異なる。そのためオンライン教育に向き合う誰もがそれぞれを持ち場で試行錯誤を行うこととなった。教員同士の相談、事例報告、苦労話の数々はFacebook上で数万人が参加する「新型コロナ休講で、大学教員は何をすべきかについて知恵と情報を共有するグループ」(<https://www.facebook.com/groups/146940180042907>)で見ることができる。興味のある方はぜひご覧いただきたい。

筆者が担当した授業では、決められた時間にオンライン会議ツールにログインし、画面共有機能でスライドを表示しながら話す形式とした。このようなリアルタイム型授業は、通常の対面形式と比較しても進め方に違いはなく、準備や当日に特段の負担は感じなかった。それに対して、回を進めるごとに資料の作り方や提示方法は変えていった。スライドのファイルを共有し、内容はその場で加筆修正する。参考資料は可能な限りリンクを示し、説明時にはブラウザで表示する。受講生は画面共有を見ているだけでもよいし、気になるころでは自身でファイルやブラウザを操作してもよい。出席者全員が確実にインターネットにアクセスできるという前代未聞(?)の状況がこれらを可能にしてくれた。

この方法に慣れると、普段の資料作りがさまざまな制約に囚われているだけでなく、新たな制約をも作り出していることを痛感する。画像の切り貼りは情報の劣化につながり、また利用条件を守って出典を記載したとしても実物を閲覧する機会を阻害していると言える。一方、リンク集のようなスライドは見た目は悪くても、本来の情報へのアクセスを促進

し、新たな利活用を考える契機になり得る。もちろん、これは画像やデータがデジタルアーカイブとして公開されているからこそ実現できるのであり、デジタル化されていない資料に対しては無力である。幸いにして、改正著作権法第35条で定められた授業目的公衆送信補償金制度が4月末に開始されたものの、現場の教員がこの制度を使いこなすにはいましばらくの時間が必要になると思われる。

研究面では、人文系にとっての生命線である図書館が利用できなくなり、研究活動が全面的に止まる事態が懸念された(現在は図書館機能の相当部分は回復している)。しかしながら、周囲の学生や若手研究者に話を聞いてみると、その影響はまちまちで、専門によって「普段と何も変わらない分野」と「何もできない分野」に分かれた。そしてこれは半ば予想通りではあるが、デジタル資料の充実度に比例している。平時にはいずれの分野も何らかの手段で資料が入手できるため、相互比較の必要性はないが、研究対象の違いが研究の進捗に直結するのは知識インフラに関わる者として忸怩たる思いがある。何もできない代わりにプログラミングを勉強する、周辺分野のオンライン研究会に参加するという学生がいたことは心強いものの、外部環境の変化に左右されない研究環境という観点からのデジタルアーカイブ整備が求められるだろう。

研究発表の場としての学会や研究会のオンライン化は、ITが苦手と言われる人文系においても定着した。現状のオンライン開催では偶然のコミュニケーションが生まれにくいといった課題もあるが、遠方からの参加者や子育て中の参加者が増加するなど、時間と場所を容易に超えられるデジタル技術が不可逆的な変化を生み出している。デジタルアーカイブについても同様に、単なる便利なツールとして利用するだけでなく、研究教育の根幹にどのように組み込み、共に発展させていくべきかを考えたい。

### トピックス

- ▶ 7/2 DAPCON : 2020 年度総会 オンライン開催
- ▶ 7/5 JSDA : 第4回研究大会スピノフ研究発表会  
4セッション、全16テーマ発表 オンライン開催
- ▶ 9/10 関連イベント: デジタルアーカイブ産学官  
フォーラム (第4回) 「ジャパンサーチの挑戦  
～ポストコロナ社会とデジタルアーカイブ～」  
オンライン開催  
主催: 国立国会図書館、  
内閣府知的財産戦略推進事務局

- ▶ 9/10 関連イベント: 「著作権法50周年に諸外国の  
改正動向を考える～デジタルアーカイブ、  
拡大集中許諾制度、孤児著作物対策～」  
【公開コロキウム】 オンライン開催  
主催: 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター (GLOCOM)
- ▶ (予定) 9/23 DARA : 2020 年度第1回目の連絡会を実施
- ▶ (予定) 9/25 DAPCON : シンポジウム  
「Out-of-commerce コンテンツをビジネス活用する  
— 公共利用を基盤として —」 オンライン開催
- ▶ (予定) 10/17, 18  
JSDA : 第5回研究大会 オンライン開催